

エコアクション21
2019年度環境経営レポート

2019年4月～2020年3月

2020年8月1日



マテックス株式会社

1. 環境経営方針

基本理念

マテックス株式会社は“窓をつうじて社会に貢献する”を経営理念の第一条に掲げております。地球温暖化による環境破壊が、人類の活動に由来した問題であることをきちんと認識し、環境負荷の軽減および環境保護に係わる社会貢献活動を積極的に実施します。

基本方針

当社は、社内の環境配慮意識を高めるための活動を推進するとともに、CO₂等の温室効果ガスの抑制に効果的な、省エネ型の開口部（窓）の提案・販売を積極的に取り組みます。そのために、次の行動指針を定め、低炭素社会の実現に貢献する努力をします。

1. 環境意識の向上を図り環境経営の継続的改善に努めます。
2. 環境関連法規を遵守します。
3. 資源・エネルギー（水、用紙、電気、ガソリン燃料）の削減に取り組みます。
4. 廃棄物の排出抑制に努めます。
5. 省エネ型の開口部（窓）の販売促進に努めます。
6. 地域の社会貢献団体との協働を推進します。
7. 組織への浸透を図るため職場チームでの取り組みを推進します。

2009年10月1日制定

2018年 7月1日改正

マテックス株式会社

代表取締役社長 松本浩志

2. 事業活動の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

マテックス株式会社
代表取締役社長 松本 浩志

(2) 所在地

〒170-0012 東京都豊島区上池袋二丁目14番11号

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 総務部長 松本 俊輔

エコアクション2.1担当者 総務部 和田 里美、津田 伸明

連絡先 電話 03-3916-2634 F A X 03-3916-2645

(4) 事業内容

建築用板ガラス・住宅サッシの販売及び設計施工、複層ガラスの製造、
ガラスの切断・加工

建設業許可番号 国土交通大臣許可(般-30)第24988号

(5) 事業の規模

平成31年度売上高 139億2,868万円

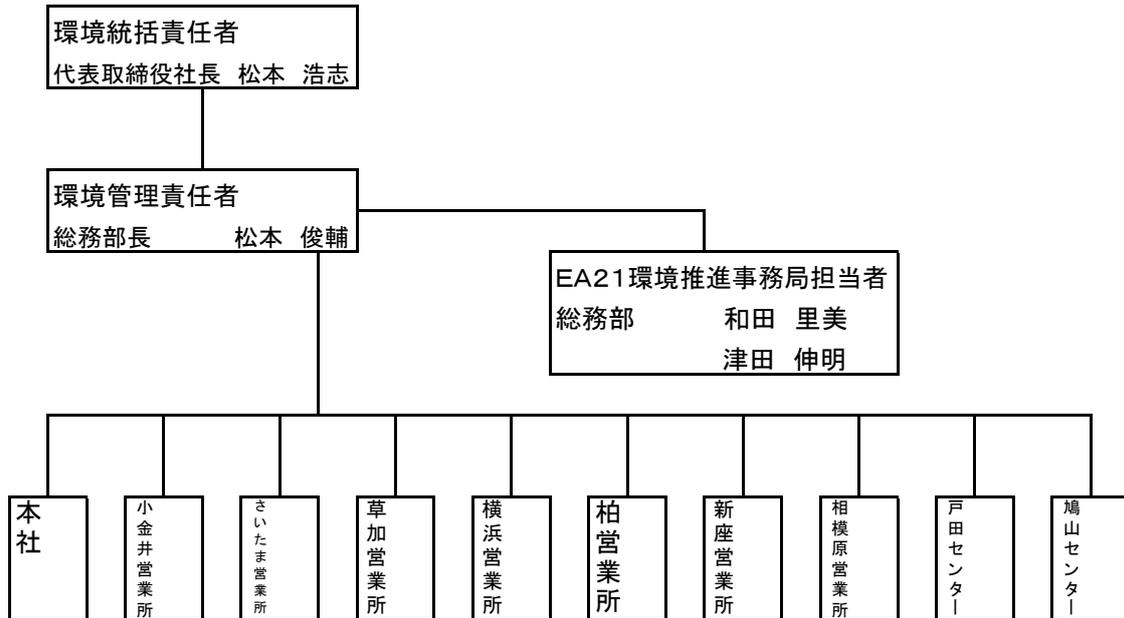
従業員数 286名

所在地および床面積

本社・倉庫	〒170-0012	東京都豊島区上池袋2-14-11	1,925㎡
小金井営業所	〒184-0013	東京都小金井市前原町5-1-17	1,097㎡
さいたま営業所	〒330-0855	埼玉県さいたま市大宮区上小町1405	883㎡
草加営業所	〒340-0003	埼玉県草加市稲荷6-12-16	721㎡
横浜営業所	〒224-0054	神奈川県横浜市都筑区佐江戸町182	794㎡
柏営業所	〒277-0863	千葉県柏市豊四季945-47	1,379㎡
新座営業所	〒352-0002	埼玉県新座市東3-2-1	1,168㎡
相模原営業所	〒252-0216	神奈川県相模原市中央区清新6-16-13	816㎡
戸田センター	〒335-0027	埼玉県戸田市氷川町2-3-12	1,699㎡
鳩山センター	〒350-0306	埼玉県比企郡鳩山町竹本1315	4,173㎡

(6) 資本金 100,000,000円

(7)実施体制図



役割・責任・権限	
代表者(社長) (認証登録範囲のトップ)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・経営における課題とチャンスの明確化 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認 ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境方針の周知 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加(各自の役割の遂行)

3. 環境活動の取組結果と評価

2018年度から環境目標を2017年度を基準年度とし、原単位（売上高100万円あたりの環境負荷）を指標としています。

項目	単位	2017年度	2019年度(2019/4~2020/3)		達成	達成率		
		実績	目標	実績				
売上高	百万円	13,558		13,929	—	—		
二酸化炭素	排出量	Kg-CO2			○	108%		
	原単位	kg-CO2/百万円	67.0	65.0	60.3			
内 訳	電気	使用量	Kwh	884,789		827,354	○	107%
		原単位	Kwh/百万円	65.3	63.3	59.4		
	ガソリン	使用量	ℓ	56,459		43,847	○	133%
		原単位	ℓ/百万円	4.2	4.2	3.1		
	軽油	使用量	ℓ	112,575		107,995	○	107%
		原単位	ℓ/百万円	8.3	8.3	7.8		
灯油	使用量	ℓ	8,539		7,531	○	111%	
	原単位	ℓ/百万円	0.6	0.6	0.5			
総排水量	使用量	m ³	3,439		3,548	○	100%	
	原単位	m ³ /百万円	0.25	0.25	0.25			
産業廃棄物	排出量	t	446.2		254.0	○	165%	
	原単位	t/百万円	0.03	0.03	0.02			
エコ窓普及促進会			環境イベントへの出展・ エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・ エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・ エコ窓の普及活動	○	—	

※排出係数 (kg-CO2/kwh)

電気：東京電力エネルギーパートナー(株) 0.462、大和ハウス工業(株) 0.571、湘南電力(株) 0.483

①電力使用量の削減

【取組内容】 省エネタイプの照明器具への取替、断熱性の高いガラスへの交換、空調機の定期的なフィルター清掃の実施、空調の適温管理、照明の未使用時電源OFFの実施、退社時間19時30分の徹底。

【評価】 目標に対し、達成率107%。

事務所内の蛍光灯の未使用時の電源OFFや空調の適温管理等の節電対策が実施され、平成23年度以降、使用量は減少しており継続していく。

【次年度】 今後も継続する。

②ガソリン使用量の削減

【取組内容】 アイドリングストップの実施、エコドライブの実施、燃費状況の把握、車内の整理。

【評価】 目標に対し、達成率133%。

数値を把握することにより、各自の燃費向上の意識を高めていきたい。

【次年度】 今後も継続する。

③軽油使用量の削減

【取組内容】 アイドリングストップの実施、エコドライブの実施、燃費状況の把握、車内の整理。

【評価】 目標に対し、達成率107%。

数値を把握することにより、各自の燃費向上の意識を高めていきたい。

【次年度】 今後も継続する。

④灯油使用量の削減

【取組内容】 暖房機を点けっ放しにしない、カーテンを開けっ放しにしない。

【評価】 目標に対し、達成率111%。

鳩山センターの製造工程でシールのシリコンを乾燥させるため、冬場のジェットヒーターの使用が多くを占めることから効率化を追求していく。

【次年度】 今後も継続する。

⑤水道使用量の削減

【取組内容】 水を出したままにしない。漏水のチェックを定期的実施する。

【評価】 目標に対し、達成率100%。

鳩山センターのペアガラス製造工程で輸入ガラスの洗浄が多くを占めることから効率化を追求していく。

【次年度】 今後も継続する。簡易的な漏水検査を実施する。

⑥産業廃棄物排出量の削減

【取組内容】 分別を徹底しリサイクルに努める。

倉庫内の整理を実施し、不要なものは処分する。

【評価】 目標に対し、達成率165%。

全社的に倉庫内の5S改善活動の推進による不要なガラス等の処分を実施したことにより、倉庫内の整理整頓を進めることができた。

【次年度】 今後も継続する。

⑧その他の活動

【エコ窓普及促進会】

マテックスが事務局を務めており、CO₂など、温室効果ガスの排出を抑制するために、断熱リフォームによる窓の高性能化が効果的かつ重要なことを一般のお客様や関連施工業者に広く認知してもらい、省エネ効果の高い樹脂製内窓やエコガラスの普及促進を図っています。自社ビジネスの発展はもちろん、低炭素社会を実現し、地球環境保護へ貢献していくことを目的としています。

〈活動実績〉

- 2019年 5月 くまがやエコライフフェア2019
- 2019年 6月 府中環境まつり2019
- 2019年 6月 いちかわ環境フェア2019
- 2019年 6月 かつしか環境・緑化フェア2019
- 2019年 7月 2019としまエコライフフェア
- 2019年10月 エコメッセ2019 in ちば
- 2019年10月 かしわ環境フェスタ2019
- 2020年 1月 第19回「まちの先生見本市！」
- 2020年 2月 第19回いたばし環境なんでも見本市



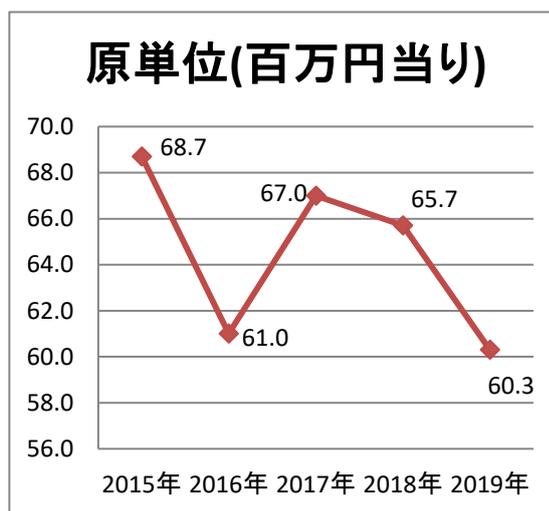
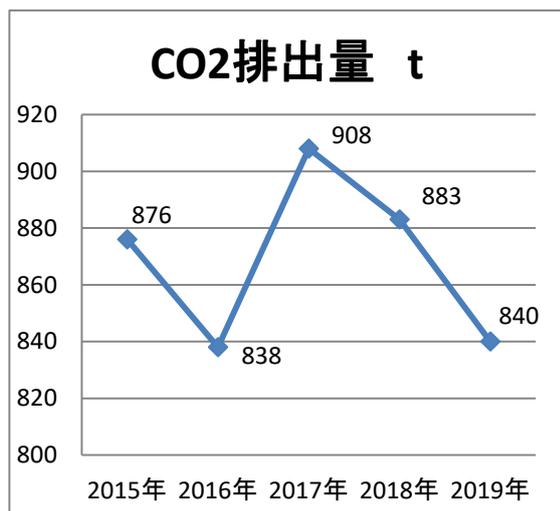
環境負荷数値実績推移について

【売上高】

年度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
売上高 百万円	13,164	13,738	13,558	13,446	13,929

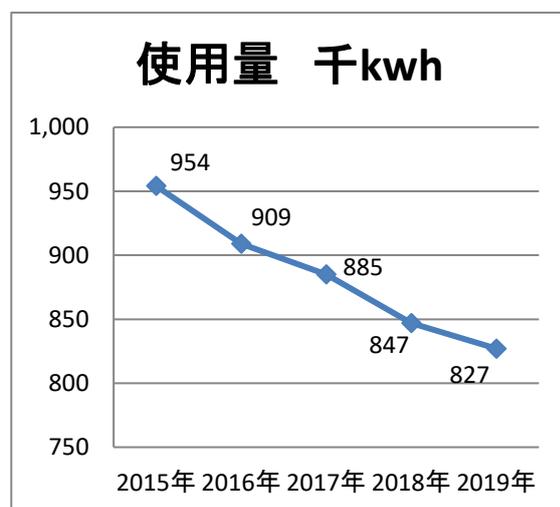
【CO2排出量】

年度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
排出量 Kg-CO2	876,412	837,999	908,349	883,353	839,927
排出量 t-CO2	876	838	908	883	840
原単位(百万円当り)	66.6	61.0	67.0	65.7	60.3



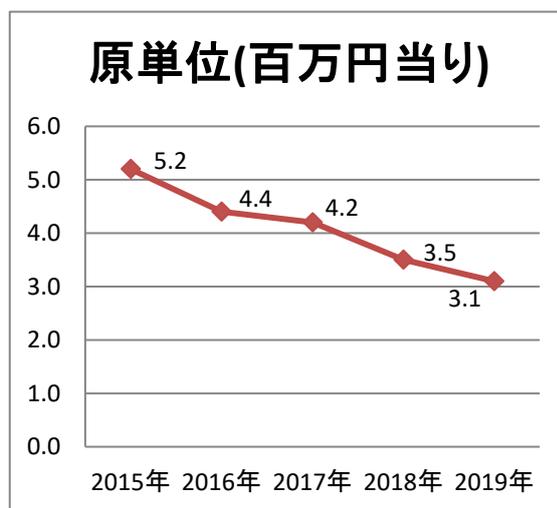
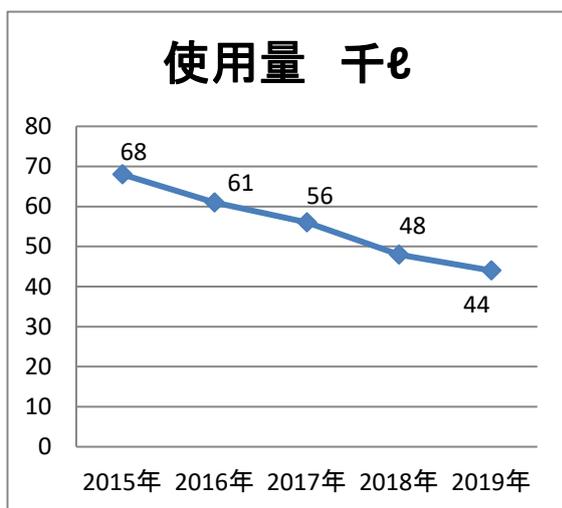
【電力使用量】 CO2排出量の52.4%

年度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
使用量 kwh	953,861	908,885	884,789	846,783	827,354
使用量 千kwh	954	909	885	847	827
原単位(百万円当り)	72.5	66.2	65.3	63.0	59.4



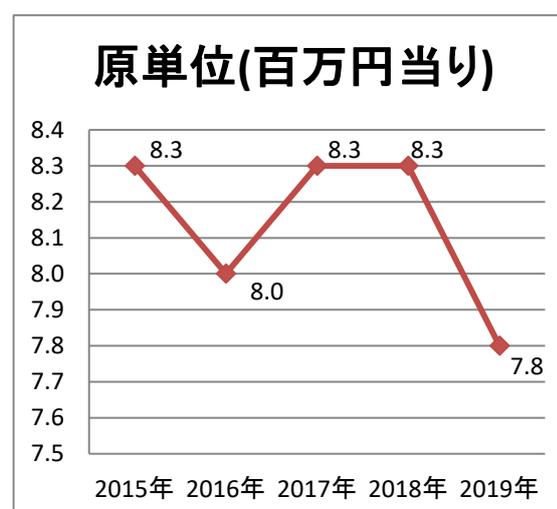
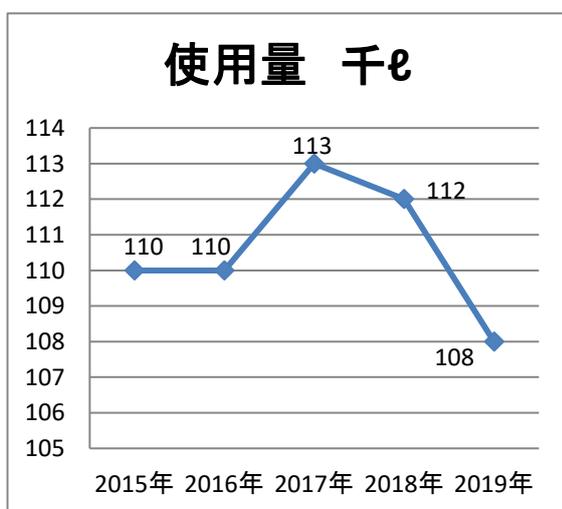
【ガソリン使用量】 CO2排出量の12.1%

年度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
使用量 ℓ	68,138	60,940	56,459	47,728	43,847
使用量 千ℓ	68	61	56	48	44
原単位(百万円当り)	5.2	4.4	4.2	3.5	3.1



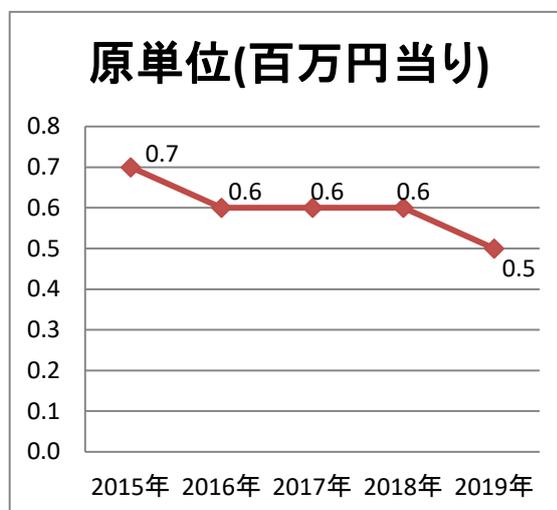
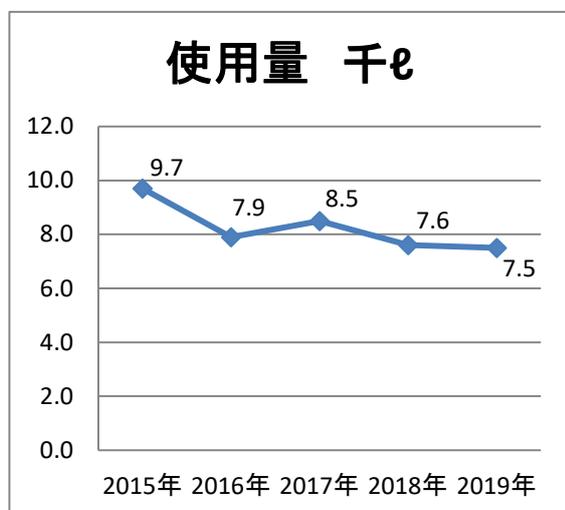
【軽油使用量】 CO2排出量の33.2%

年度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
使用量 ℓ	109,757	110,478	112,575	111,820	107,995
使用量 千ℓ	110	110	113	112	108
原単位(百万円当り)	8.3	8.0	8.3	8.3	7.8



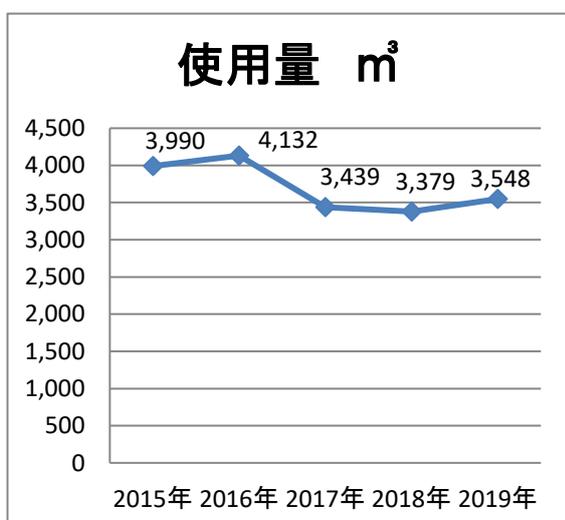
【灯油使用量】 CO2排出量の2.2%

年度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
使用量 ℓ	9,669	7,904	8,539	7,603	7,531
使用量 千ℓ	9.7	7.9	8.5	7.6	7.5
原単位(百万円当り)	0.7	0.6	0.6	0.6	0.5



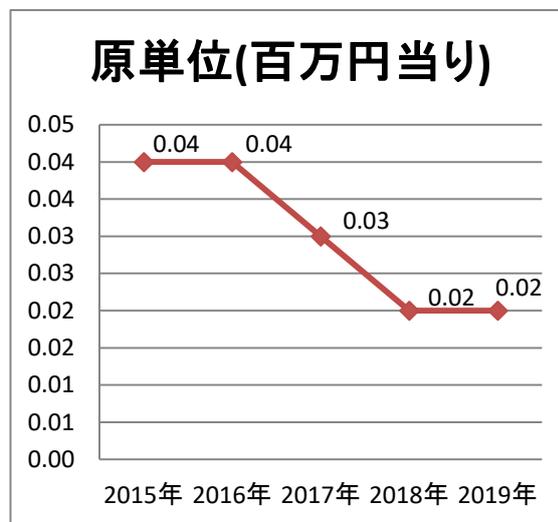
【総排水量】

年度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
使用量 m ³	3,990	4,132	3,439	3,379	3,548
原単位(百万円当り)	0.30	0.30	0.25	0.25	0.25



【産業廃棄物】

年度	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
使用量 t	539.3	575.1	446.2	271.3	254.0
原単位(百万円当り)	0.04	0.04	0.03	0.02	0.02



4. 次年度以降の環境経営目標及び環境活動の内容と中長期計画

(1) 環境負荷削減目標数値

2017年度を基準年度とし、二酸化炭素排出量と廃棄物排出量の削減目標は、原単位(売上高100万円あたりの環境負荷)を指標とします。2021年以降は前年比1%減とします。

項目	単位	2017年度(基準)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
		2017/4~2018/3	2018/4~2019/3	2019/4~2020/3	2020/4~2021/3	2021/4~2022/3	2022/4~2023/3	2023/4~2024/3	
	目標削減率%		二酸化炭素・電気・産廃 2%減、他は 現状維持	二酸化炭素・電気・産廃 2%減、他は 現状維持	二酸化炭素・電気・産廃 2%減、他は 現状維持	二酸化炭素・電気・産廃前 年比1%減 他、現状維持	二酸化炭素・電気・産廃前 年比1%減 他、現状維持	二酸化炭素・電気・産廃前 年比1%減 他、現状維持	
売上高(原単位)	百万円	13,558							
二酸化炭素	kg-CO2/百万円	67.0	65.7	65.0	64.3	63.3	62.3	61.3	
内訳	電気	Kwh/百万円	65.3	64.0	63.3	62.7	61.7	60.7	59.7
	ガソリン	ℓ/百万円	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2
	軽油	ℓ/百万円	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3	8.3
	灯油	ℓ/百万円	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
総排水量	m ³ /百万円	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	
産業廃棄物	t/百万円	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	
エコ窓普及促進		環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	環境イベントへの出展・エコ窓の普及活動	

(2) 環境活動の内容

1. 二酸化炭素排出量の削減

- エアコンの設定温度を常に意識する
- パソコンは外出時に消す
- アイドリングストップ、急発進、急加速しない
- 余計な荷物を積まない
- 効率の良い配送をする
- 退社時間を遵守する

2. 水道使用量の削減

- 節水を促す表示を行い、節水意識の向上
- 食器洗いや手洗いの際、水を出したままにしない
- 漏水検査を実施する

3. 産業廃棄物排出量の削減

- 発注ミス・破損を無くすようにする
- 発泡スチロール、PPバンド、合紙をメーカーへ返却する
- ペアガラスはグレチャンを外し、ジャミと産廃を分ける
- 5S改善活動の推進により、整理整頓を実施する

4. エコ窓の普及促進活動等

- 地域の社会貢献団体との協働
- 社内の環境意識の向上
- エコガラスの販売促進
- 子供の環境教育

5. 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

- (1)環境関連法規の遵守状況を自ら確認及び評価した結果、問題ありません。
- (2)関係当局からの違反の指摘は、過去3年間ありません。
- (3)訴訟も、過去3年間ありません。

6. 代表者による全体評価と見直しの結果

□見直し実施日 2020年8月1日

□出席者 社長、環境管理責任者、和田、津田

□見直し内容

①環境基本方針変更の必要性： なし

②環境目標変更の必要性： なし

③実施体制変更の必要性： なし

□2019年度活動結果と2020年度の取り組み

2019年度は、各項目において目標を達成することが出来ました。しかし、CO2排出量削減に向けて当社の課題は、軽油使用量の削減と認識しており、燃費確認などの対策を引き続き実施していきます。

2020年度は、2017年度に対して各事業所のCO2排出量、電気・産業廃棄物は4%の削減、他項目は現状維持、燃料はガソリン15km/l、軽油8km/lを目標に取り組むことでCO2排出量を削減します。

□代表者コメント

マテックスが掲げる「窓から日本を変えていく」は、単なるスローガンではなく、今この時代を奇跡的に生きている私たちの使命と受け止め、世界的枠組みで拡がりつつある脱炭素社会への移行と実現、住環境に起因する健康リスクの低減、深刻な自然災害への対策など、重要課題に対し真剣に挑んでいます。

「語りつくせない窓の魅力」。それは、単に雨風をしのぎ、光を採り入れるための役割にとどまらず、脱炭素社会、真の健康増進、減災、を実現するためのデバイスであるからです。夏暑く、冬寒い家。そういった家が過ごし難いことは勿論ですが、それ以上に、エネルギーロスも環境負荷も大きいこと、更にはヒートショックや風邪をひきやすいといった健康との因果関係についても統計データから実証されています。

私たちは「窓の卸商社」の立場から、住宅の燃費、温熱環境、災害リスク軽減、のカギを握る「窓」を変えることで、日本を変えたいと本気で考えています。目指すのは、人に、環境に、地域にとって、持続可能な社会です。人がその一生を健康で生き活きと暮らせること、無駄なエネルギー消費やCO2排出を抑え環境への負荷を軽減すること、地域企業が各々の役割を發揮し「共創共栄」できる社会を目指します。

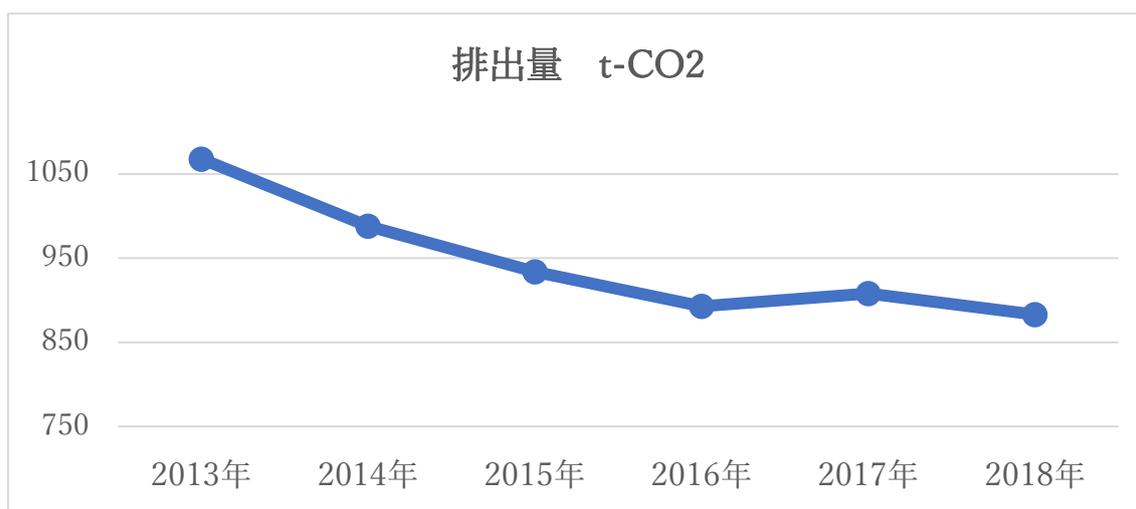
7. MATEX の SDGs

MATEX が目指す SDGs

SDGs の取り組みをつうじて2つの大きなゴールを目指します。1つは、社内から発生する CO₂ の排出削減に関するもの。もう1つは、事業をつうじて社会からの削減に寄与できるものです。いずれの目標も数値を可視化し、その進捗を皆で共有しながら 2030 年に向けてチャレンジしていきます。

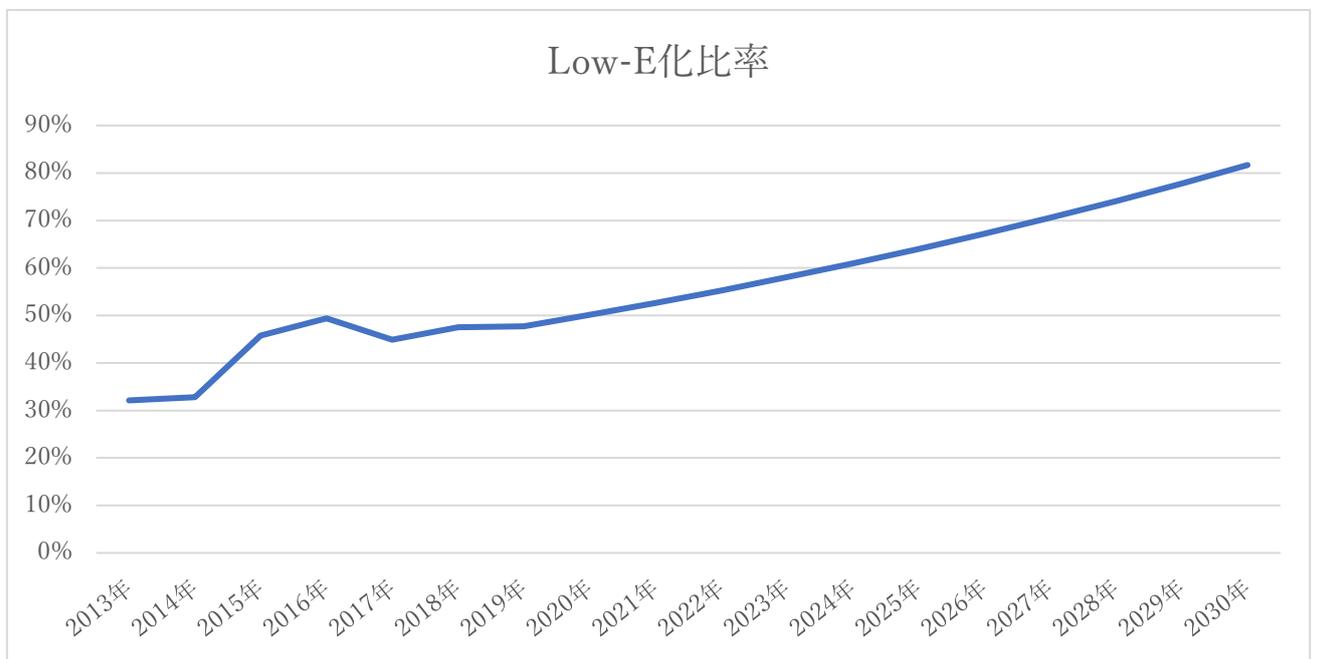
CO₂ 排出量マイナス 26%

SDGs 国内指針では CO₂ 排出量を 2013 年比、2030 年までにマイナス 26% を目指しています。マテックスは 2010 年より「エコアクション 21」の認証を取得し、社内の CO₂ 排出量の可視化に取り組んできました。2013 年度 1,068 トンだった排出量を、2030 年度には 742 トンを目指し、社内設備や運用の見直し、そして社員一人ひとりの省エネ意識を結集して取り組んでいきます。



エコガラスの普及促進で社会からのCO₂排出量削減17万5千トン

板硝子協会の発行する「エコガラスのLCA（ライフサイクルアセスメント）報告書」には、エコガラス（Low-E 複層ガラスの共通呼称）が原材料の採掘から製造、配送、そして廃棄に至るまでに排出するCO₂、そして家庭に導入した時に削減できるCO₂について、それぞれ示されています。マテックスはエコガラスの普及を積極的に進める事で、仮に一枚ガラスが社会に流通した場合と比較して2013年比、2030年までに17万5千トンのCO₂削減に寄与できるものと考えています。その為に必要なLow-E化率（複層ガラス以上の製品の出荷比率は80%であると試算）の達成にチャレンジします。



SDGs への取り組み

マテックスは脱炭素社会の実現や住環境に潜むリスクの低減など、窓をつうじた社会課題の解決に注力しています。

ここでは、マテックスの SDGs の具体的活動を紹介しています。

1. 脱炭素社会実現に向けたマテックスの手段

エコ窓リフォームの普及活動と補助金制度の設計支援



・エコ窓普及促進会/制度設計の提案

エコリフォーム補助金制度の構築を提案するセミナーを地方自治体の環境政策課、住宅課を対象に開催しています。千葉県柏市の「柏市エコハウス促進総合補助金制度」の導入を皮切りに板橋区、新宿区、豊島区、武蔵野市、府中市、川崎市、多摩市の制度づくりの支援をしてきました。過去、17自治体にご参加いただいています。



・エコ窓普及促進会/生活者コンタクト

2009年に発足した地球温暖化対策地域協議会「エコ窓普及促進会」は、「窓」のエネルギーロス対策について広く知らせると同時に生活者の環境リテラシー向上を目的としています。生活者に「日常生活の”CO2 削減“や”健康維持“には窓の断熱が重要なんです！」ということを知っていただくために地方自治体の環境系イベントへ参画し、窓の断熱改修の普及促進活動を行っています。出展累計は150イベントです。



・よこはま省エネ住宅アカデミー

2015年より、横浜市公民連携事業「テーマ型共創フロント」に採択されマンションにお住まいの生活者の方を対象に省エネルギー住宅アカデミーを開催し、エコリフォームの効果と管理組合の合意形成からエコ窓導入までの支援をしています。住まい手による、住まい手のためのマンション窓断熱改修講座に拘っている点が評価され、これまでに累計18講座、286名のご参加をいただいています。



・健康省エネのライフスタイル提案

機能の優位性を訴求するばかりでなく、生活者の新しいライフスタイル提案を基軸とした窓辺のプチリノベーション「madolino」を展開。感性価値の提案からはじまり、後に健康省エネの啓蒙に努めることで関心をもって頂ける生活者層が拡がりつつあります。



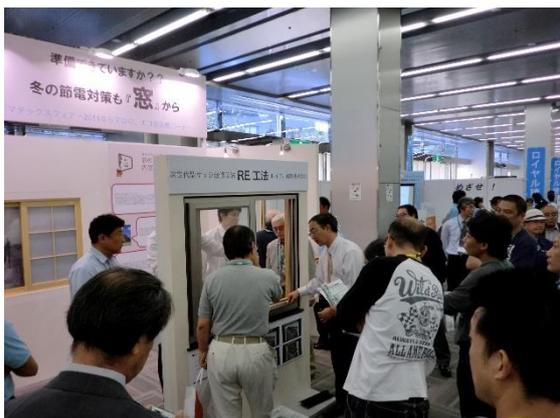
2. 社会志向型地域事業者の養成



・地域事業者支援/元請転換

エコ商品の取扱量に重点を置くことなく、家庭における「エコソリューションとしての窓」を的確に提案提供できるパートナーを輩出することに価値を置き、下請業から生活者向けの元請サービス業へシフトするための高難度の支援活動です。

12年の期間を経て累計セミナー実施回数は445回、累計参加人数は4,280人に及び、当初7店に止まっていたエコ窓リフォーム店を、今日では300店強規模にまで拡げています。



・地域事業者支援/真の健康省エネ住宅

2016年からは、真の健康省エネ住宅を社会に広めるために新築を手がける地域工務店まで範囲を広げ、低炭素社会づくりに不可欠な高性能住宅のつくり方のノウハウを現場見学会やセミナーを通じて提供しています(2016年2月から今日までに106社参加)



3. 持続可能社会の実現に向けた人づくり 次代を担う若者の育成と社内大学の創設



・「環境課題解決と仕事のモチベーション」セミナー

学生に対しては「環境課題解決と仕事のモチベーション」を題材としたセミナーやワークショップを提供しており、キャリア設計の支援を越えた環境リテラシー養成と社会志向型人材の育成に取り組んでいます。（連携校：和光大学、立教大学、東洋大学、日本大学、大正大学、嘉悦大学、法政大学、文京学院大学、東京家政学院大学）



・インターンシップによる環境リテラシー教育

インターン生の受け入れ人数も年々増加の一途をたどり累計で 306 名となりました。今日では大学の教授やキャリアセンターからも弊社のインターンシッププログラムに関心が寄せられ、教え子の参加を促されるケースが多く出てきています。またインターン経験者が、後に正社員として入社を希望するケースも 5 年連続で起きており、環境問題の解決に取り組む意欲のある学生の挑戦を応援する機会と場づくりが実現つつあると確信しています。



・社内大学の創設と新しい終身雇用の実現

新しい終身雇用を実現すべく“マテックスカレッジ”を創設し、ビジネスパーソンとしての知識やスキル習得はもちろん、一人ひとりが人間としての幅をひろげるため、魅力的な大人になるためのプログラムを用意しています。

